



人と企業の成長が教育の理念



階層別の職種
こと人材教育
 関西急送(本社・京都市、彦物弘社長)は、中・長期を視野に入れた新しい教育・研修プロジェクトを今年スタートする。
 階層別職種の職務ごとに、必要な知識を体系化し、明確

関西急送



久保田 浩専務

商品開発を重視 問屋機能で販売士育成

に、求められる船ど、これを培うための基礎教育や応用コース(輸送・在庫・物流センター運営)のロジスティックMコース・事業収益管理・需給調整・ライフサイクルコスト)③ロジスティックシステムMコース(拠点計画管理・在庫配置計画・統合計画)④サプライチェーンMコース(CS・アラヤアンス・グループ戦略)⑤個人の自主性を尊重し、コースの選択は、自己の独自選択方式としている。

知識の体系化を推進

の、事業分野の拡大については、今後、異業種からの人材採用にも力を入れていく。また、同社では昨年、兵庫県下の農協のJA生鮮品共同購入運動の組合員への未帰配送業務をスタート。この業務では、商品の仕分け、配送営業などを行うドライバー職に、元農協職員など地元女性若人をローテーション制で採用。女性の戦力化も進めている。

同社の教育理念は、人と企業が共に成長する。という考え方が原点。
 「教育は会社の財産、個人の財産を形成するもの」(久保田浩専務)とし、個人のスキルアップに対する支援を充実させている。

メモ

▽本社・京都市伏見区久我石原町八一四三△創業・昭和16年2月▽資本金・二千万円▽従業員数・四百二十六人(パート含む)▽車種目・二百七十九台▽事業種目・一般、業種別専門輸送▽拠点・五支店七営業所(京都・大阪・高槻・東播・福知山・神戸・氷上・篠山・豊岡・舞鶴・峰山・流通)▽売上高・一億九千七百万円、営業利益・一億九千七百万円、経常利益二億三千六百万円(6年11月期)

講座、通信教育などを活用、基礎教育と応用教育を実施し、物流技術管理士・国際物流管理士・販売士三級などを育成する。
 管理職の教育では、労務管理の専門教育に加え、個人の独自分野の能力を高めることが求められる。

教育研修体系のマトリックス

	営業職	現場監督者
要求される能力	1.ロジスティックの知識 2.物流コスト管理・分析力 3.物流システムの開発 4.問題発見・改善方法 5.輸配送ソフト開発	1.問題発見力 2.改善立案力 3.物流管理全般知識
基礎教育	・物流管理システム ・物流行政動向 ・ロジスティック	・物流管理 ・物流労務管理
応用教育	・物流コスト管理 ・物流システム開発	・現場作業革新法 ・物流機器 ・マテハン開発

教育には、社内教育のほか、社外講習・セミナーの受講、通信教育などを導入しているが、パソコン、ワープロなどの情報機器の技能習得などの費用も一〇〇%会社負担を原則としている。
 各種資格の取得のバックアップも積極的で、社員三百六十人のうち、約一割が物流管理士の資格を持つ。
 現在、一般企業を含め、管理職の社外パソコン研修の参加が盛んだが、同社では十人以上前に、情報化時代に対応した補助金制度を導入、課長以上の管理職は、全員パソコンを使いこなせる。
 同社の社是のひとつは、自覚。自ら考えよう、すべてのへスだ。(今井靖夫記者)